



(案)

船橋市緑の基本計画

【改定第2版】

歩こう・ふれよう

「緑・水・ふるさと、ふなばし」



平成28年12月

船 橋 市

はじめに

本市は、海から源流域までたどれる水系特性があるほか、南部には貴重な干潟・浅海域「三番瀬（さんばんぜ）」、内陸部には河川の源流域となる斜面緑地、ふなばしアンデルセン公園や県民の森といったまとまった緑地が残っており、市街化が進んでいる一方で、特徴ある緑の自然環境がみられるまちとなっています。

緑は生活にうるおいとやすらぎをもたらすかけがいのない財産であり、現在残っている緑を保全しながら、新たな緑の創出を図り、それらの緑と水の景観に親しめる拠点のネットワーク形成を行うことで、将来を担う子どもたちに豊かな自然を継承してゆくことが私たちの責任だと考えています。

そのために、都市の緑の適正な保全及び緑化に関する計画である「緑の基本計画」を中長期的な視点に立って策定し、市民のみなさまと行政が一体となって緑のまちづくりに取り組んでいくための共通目標・指針として推進していきます。

「緑の基本計画」の詳細は [第7章 緑の基本計画とは](#) をご覧ください

市の木・市の花

サザンカ



ヒマワリ



カザグルマ



■市の木「サザンカ」

市の木は、昭和48年に開催された千葉県（若潮）国体に向けての記念事業として、市民からの応募により制定しました。（昭和45年11月10日）

第24回全国都市緑化ふなばしフェア開催を記念し、市民アンケートを基に、2種類の市の花を制定しました。（平成19年10月2日）

■市の花「ヒマワリ」～子どもたちの夢を育む花～

広く市民に親しまれており、太陽に向かって咲き、力強く、将来の船橋市の子どもたちに勇気と希望を与える花であることから選ばれました。

■市の花「カザグルマ」～大切に守り育てる花～

船橋市に自生している貴重種であり、市のシンボルとして、大切に保護し、保存していくべき花であることから選ばれました。

本計画書は読みやすくなるよう、前半に「緑の機能」「計画の基本方針」「計画実現のための施策」等を記載し、計画の位置づけ等は後半に示しています。

目 次

第1章	緑の機能	1
第2章	船橋の緑の現況	3
①	緑の機能ごとの現況	3
②	樹林地の現況	11
③	市民の緑に対する意識	12
第3章	計画の基本方針	14
①	緑の将来像	14
②	計画の基本方針	14
③	計画の目標	17
第4章	計画実現のための施策	19
①	船橋らしい緑の保全	21
②	公園緑地の整備	24
③	緑化の推進	29
④	緑の効果を高める管理の充実	31
⑤	市民との協働の推進	32
⑥	緑の普及・啓発	35
第5章	地域別計画	38
第6章	計画策定後の進行管理	59
第7章	緑の基本計画とは	60
①	緑の基本計画の必要性と意義	60
②	船橋市緑の基本計画改定の背景	61
資料編		64
①	計画策定に関する諸条件	65
②	市民の緑に対する意識に関する資料	66
	【用語の解説】	72

第1章 緑の機能

都市の緑には大きく分けて次の5つの機能があり、市民の生活環境や生態系にとっても重要な役割を果たしています。

① レクリエーション

—— 健康の維持・やすらぎ ——

公園や緑地は遊びやスポーツ、学習活動の場といった様々な用途で利用され、緑を介してさまざまなコミュニケーションが生まれます。

また、緑は私たちに精神的な安らぎを与え、ストレスを緩和する働きもあり、健康を維持・増進するレクリエーションの場として、暮らしを豊かにする役割を果たしています。

② 防災

—— 都市の安全性の向上 ——

緑地は雨を浸透させ、貯えておく機能があり、河川の氾濫などの水害や土砂災害の防止に役立ちます。

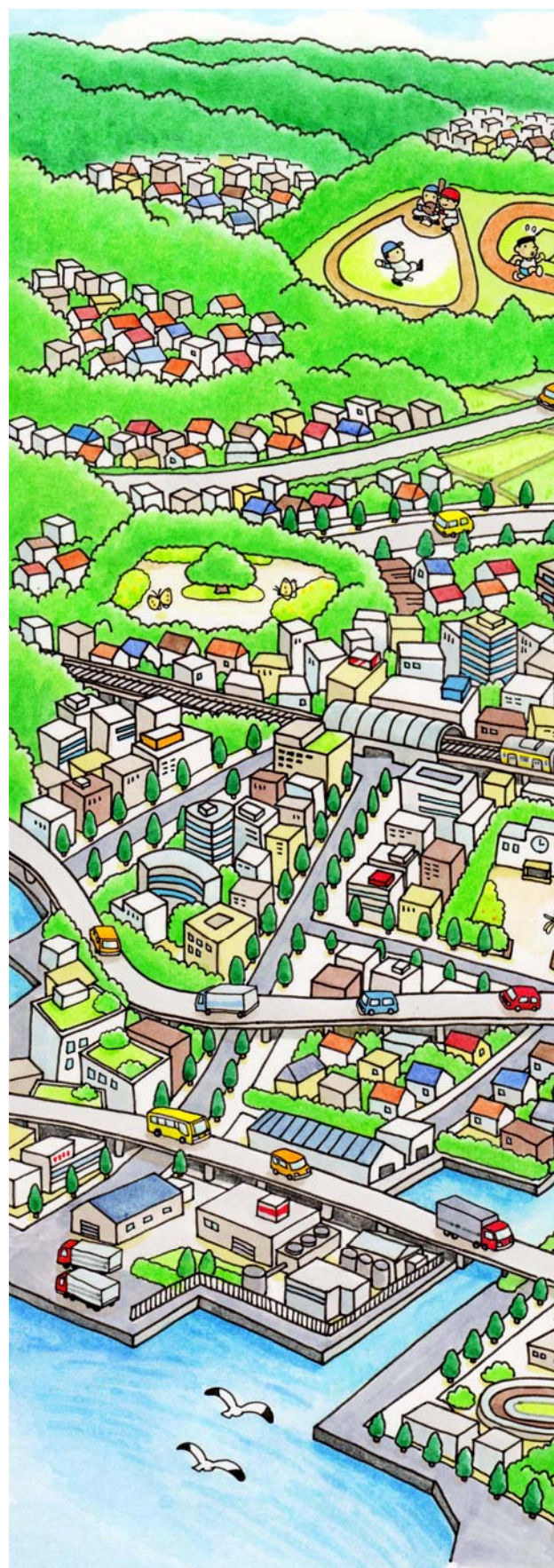
また、地震に伴って発生する火災に対して、樹木は延焼防止の役割を果たし、公園や街路の樹木は焼け止まりに大きく役立ちます。

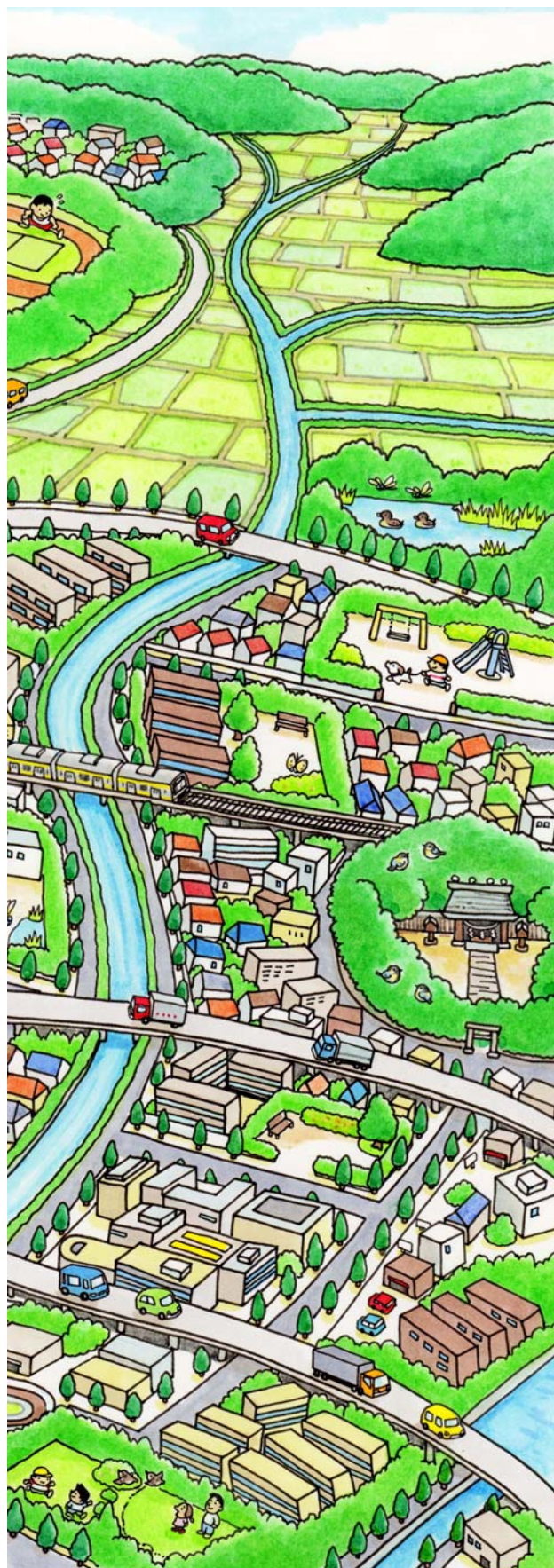
さらに、樹木は建物の倒壊を防ぎ、避難者に空間と時間の余地を与え、公園などのオープンスペースは、災害時の避難場所や救援活動の拠点として利用されます。

③ 景観形成

—— 地域らしさや潤いのある景観の創出 ——

四季折々に変化する自然地の緑や住宅地の緑、沿道の並木・草花、水辺などは、美しい景観を形成する大切な要素となります。都市の歴史・文化は、人と自然環境が織りなす風土により伝えられてきたものであり、こうした背景を持つ緑は、ふるさとの歴史的景観を継承する重要な要素です。





④ 生物多様性の保全

—— 生きものの生育・生息の場の確保 ——

豊かな生態系は生きものの多様性によって維持されるとともに、生きものとのふれあいは、次世代を担う子どもたちの情操を育むうえでも重要です。緑は、酸素を供給していのちを育み、生きものの生育・生息を支えています。このため、都市において、さまざまな形で生きものが生息できる環境を保全し、相互に連続させていくことが求められます。

⑤ 都市環境の保全

—— 温暖化防止、ヒートアイランド現象の緩和等 ——

地球温暖化は、生態系に大きな影響を与えることから、その防止を図ることが世界中の課題となっています。樹木などの植物は、光合成作用を通して空気中の二酸化炭素を吸収し、酸素を供給する重要な役割を持っています。

また、ヒートアイランド現象に対し、樹林地や草地は、コンクリートやアスファルトに比べて日中温まりにくく、夜間も放熱しにくいという性質があるばかりでなく、蒸散作用によって空気中の熱を奪い、低温化するという働きがあります。

さらに、大気の浄化や、騒音防止といった生活環境の保全にも役立っています。

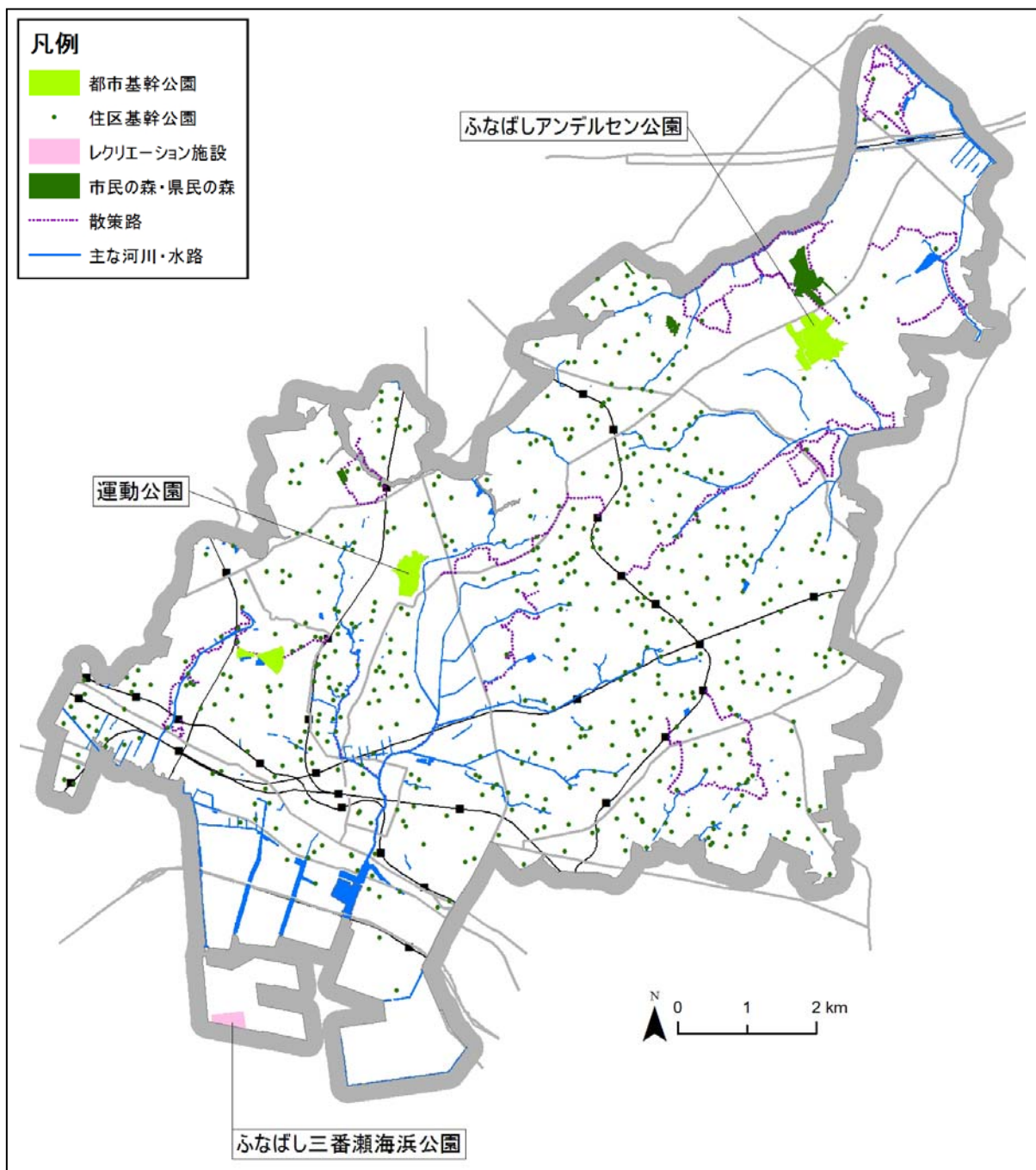
第2章 船橋の緑の現況

① 緑の機能ごとの現況

① レクリエーション

—— 健康の維持・やすらぎ ——

都市の中の身近な公園は、市民の日常的な憩いの場となっています。また、大規模な公園は、市民の多様なレクリエーション需要に応え、都市の快適性にも寄与しています。一方、開放型の都市緑地や市民の森・県民の森は、自然とのふれあいの場として活用されています。



緑のレクリエーション機能の現況

■船橋市のレクリエーション機能の高い公園等

運動公園（昭和40年開設 計画面積19.4ha）

スポーツ健康都市宣言の中心施設として運動公園があります。テニスコート・陸上競技場・野球場・体育館・自由運動広場・ディスクゴルフコースなどの施設が充実しており、いろいろな種類のスポーツを本格的に行うことができます。また、老朽化したプール施設を、遊戯性を高めた魅力的なプールに改修します。



運動公園プール
改修イメージ

ふなばし三番瀬海浜公園（レクリエーション施設昭和57年開園 計画面積8.3ha）

東京湾最奥部の浅い海域、三番瀬は、春から初夏にかけて潮干狩りが楽しめ、一年を通して渡り鳥の観察や富士山の撮影ができるポイントとしても知られています。

その三番瀬に隣接するふなばし三番瀬海浜公園は、テニスコートや野球場も備えた海辺のスポーツ・レクリエーション施設として管理してきましたが、プール跡地を再整備し、環境教育の拠点となる三番瀬の自然環境を学べる環境学習施設を造り、新たに都市公園として管理します。



環境学習施設
イメージ



プール跡地
再整備イメージ

ふなばしアンデルセン公園 (平成8年開設 計画面積39.4ha)

昭和62年に市制施行50周年の記念事業として開設した「ワンパク王国」に、「メルヘンの丘ゾーン」「子ども美術館ゾーン」を拡張し、平成8年に都市公園としてふなばしアンデルセン公園が開園しました。

整備には、世界的な童話作家H.C.アンデルセンの生誕の地で、本市と姉妹都市であるデンマーク王国オーデンセ市の全面的な協力を受け、開園後も様々な交流事業が行われています。

平成19年には、4つ目の「自然体験(里山の水辺)ゾーン」を開設し、本公園を主会場に全国都市緑化ふなばしフェアが開催されました。平成23年に「花の城ゾーン」を加え、5つのゾーンからなる総合公園となっています。

季節を問わずたくさんの草花が楽しめ、公園スタッフと一緒に園内を歩いて植物を観察する「自然観察会」なども開催されています。

また、花壇の植え付けから管理、フラワースクールなどのイベントの補助を行う「花と緑のボランティア」も活動しており、市民との協働により施設の活性化を図り、愛着を感じていただける公園づくりを目指しています。



棚田



カザグルマ



とかげネット

アンデルセン童話をイメージした遊具と四季の風を感じることができる「花の城ゾーン」は小さな子どものいる家族連れにおすすめです。



風車

デンマークの風車や農家など、のどかな田園風景が広がる「メルヘンの丘ゾーン」では、太陽の池でボート遊びが楽しめます。また、メルヘンの丘を中心として、一般の方から公募した「ガイドボランティア」による園内施設の説明もあります。



太陽の池

樹林地や里山の自然環境を学べる「自然体験ゾーン」では、子どもたちの自然環境体験学習の場として、田植えや稲刈りなどの活動や自然観察会などが開催されます。



シルクハットをかぶった
童話作家アンデルセン
のシルエットが公園の
シンボルマーク



田植えの体験



森のアスレチック



ワンパク城

自然の中で自由にのびのびと遊べる「ワンパク王国ゾーン」では、アスレチックに大すべり台、にじの池、小動物たちとのふれあい広場など、子どもはもちろん、大人も童心にかえって遊べます。



どうぶつふれあい広場



子ども美術館のワークショップ

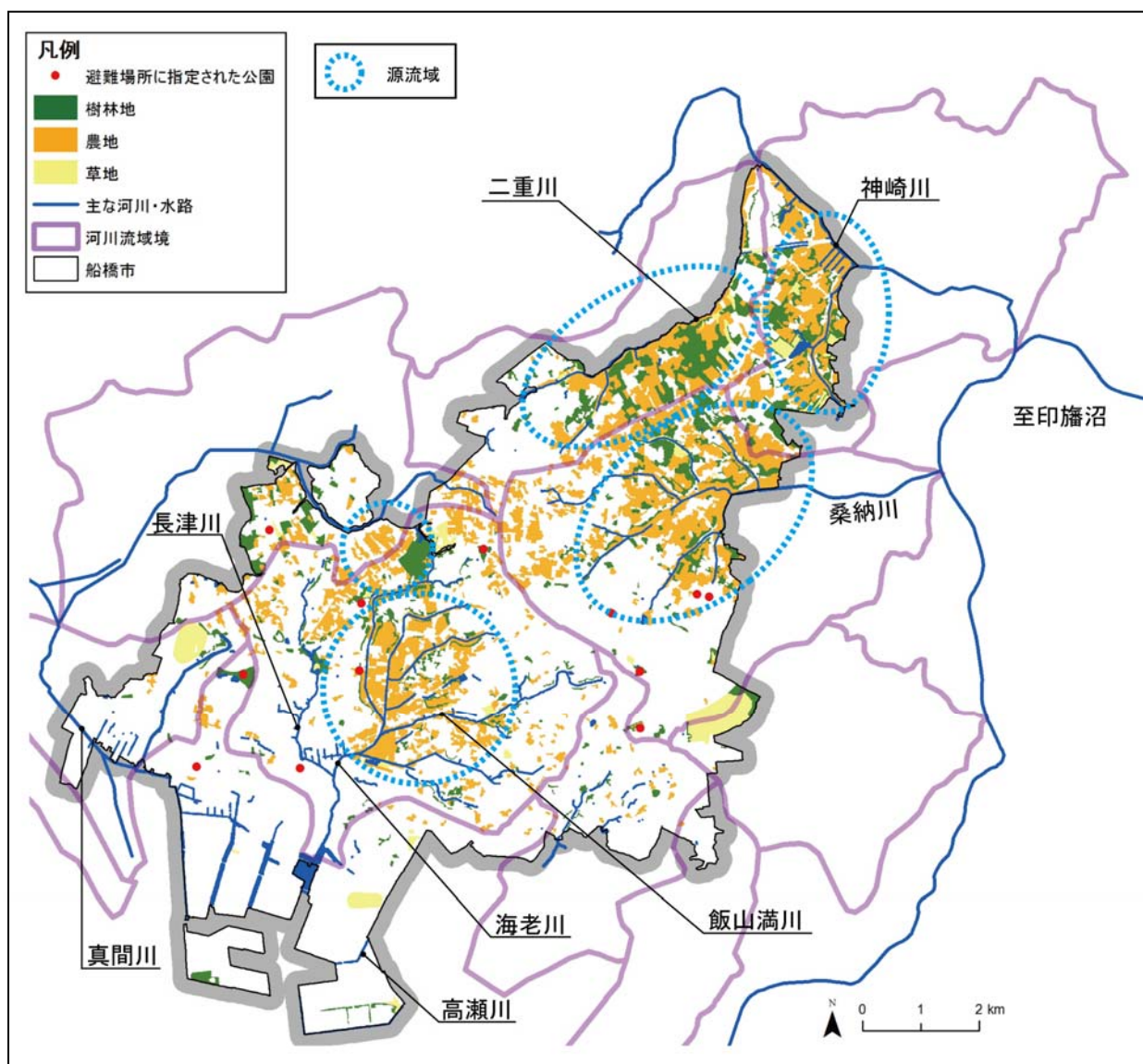
作品をつくる楽しさを体験できる「子ども美術館ゾーン」には、8つのアトリエと多様な企画展が行われる展示スペースがあり、それぞれのテーマに合わせたプログラムを実施しています。企画展に合わせたワークショップでは、作家と一緒に制作体験ができ、アンデルセンスタジオでは童話の登場人物になって演じる感動を体験することができます。

② 防災

—— 都市の安全性の向上 ——

本市には、海老川、桑納川、神崎川等の緑豊かな源流域があります。この源流域の緑地は、雨を浸透させ、貯えておく機能があり、洪水の緩和、地下水や湧水の保全に役立っています。

一方、災害時の避難場所に指定されている公園が多数ありますが、公園等のオープンスペースは、市街地の延焼を防止し避難空間の確保に役立つとともに、救援活動の拠点にもなります。



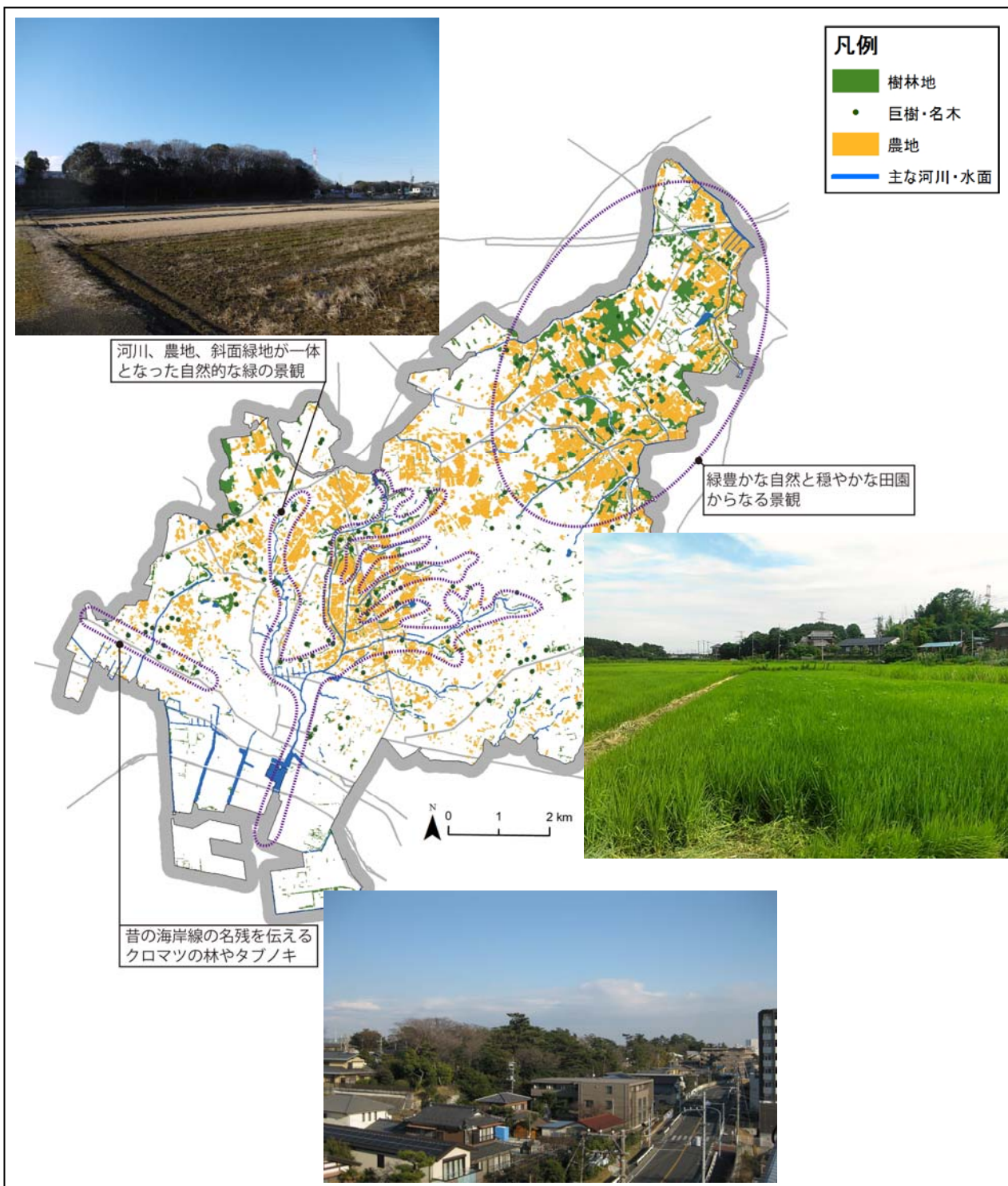
緑の防災機能の現況

③ 景観形成

—— 船橋らしさや潤いのある景観の創出 ——

本市には、市の中心部を流れ海から源流域までたどれる海老川や、市街地に自然的な緑の景観を提供する斜面緑地など、魅力的な緑が数多くあります。

また、昔の海岸線の名残を伝えるクロマツの林やタブノキが生育するほか、市内各所にふるさとの風土の歴史を肌に刻んだ巨樹・名木が点在しています。北部地域にも豊かな自然と穏やかな田園からなる景観がみられます。

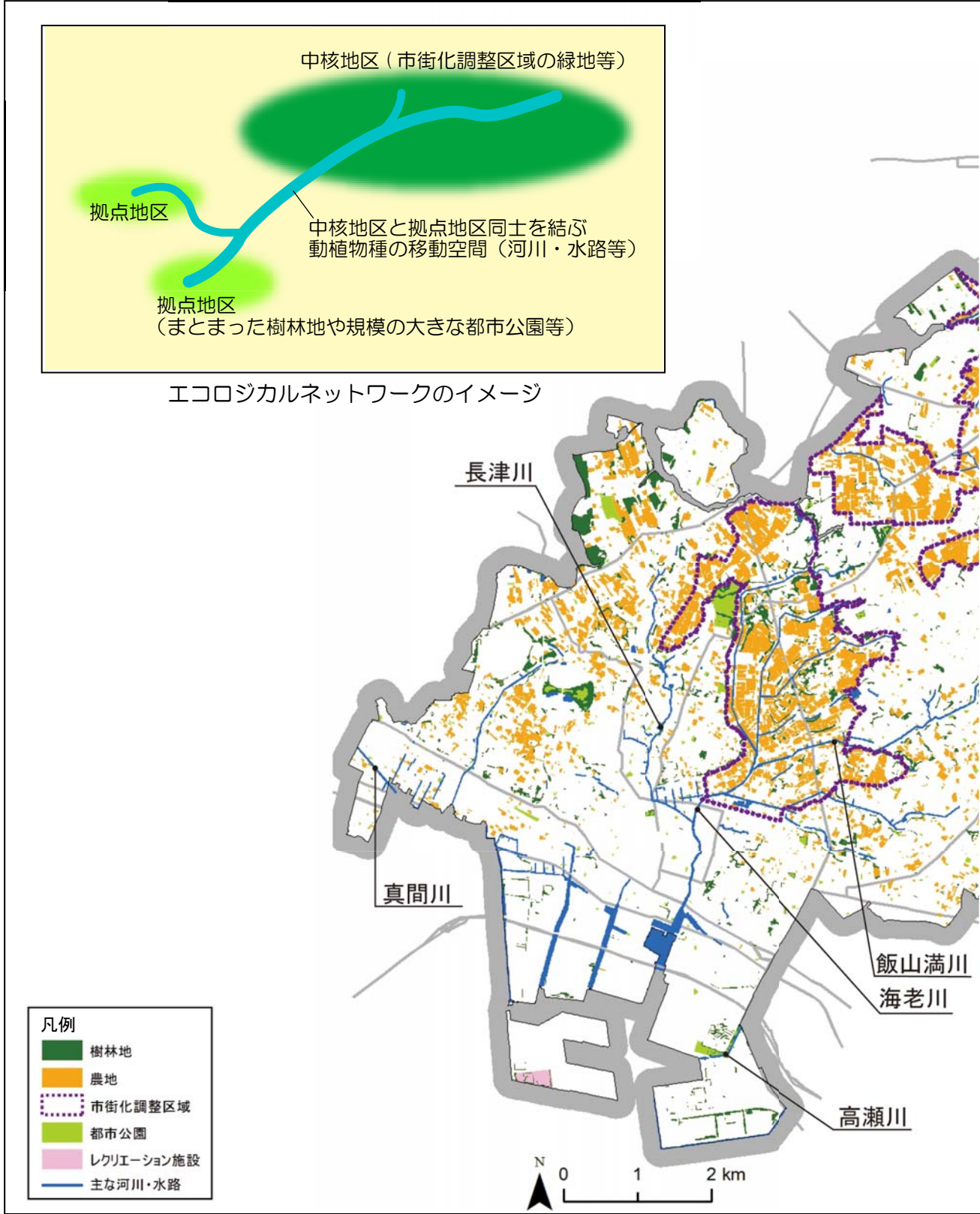


緑の景観形成機能の現況

④ 生物多様性の保全

—— 生きものの生育・生息の場の確保 ——

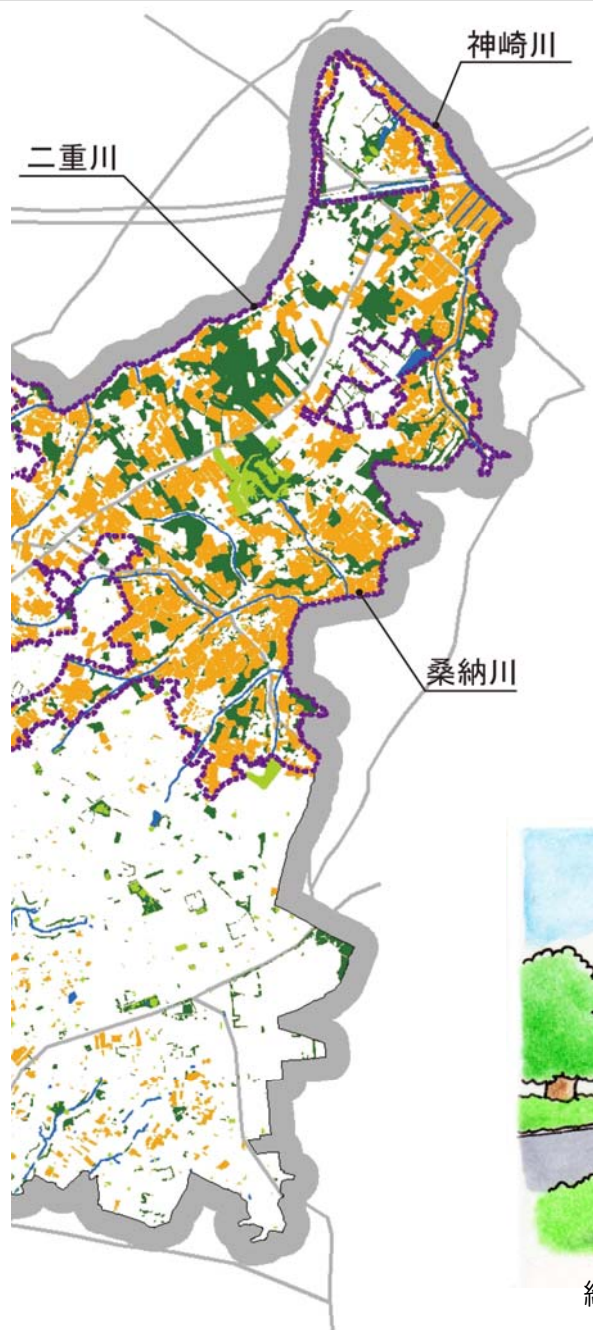
本市では、南部地域や鉄道沿線を中心に都市化が進んでいますが、北部地域には緑地や湧水などの自然的な環境要素がまだ多く残されています。また、市の中心部に位置する海老川源流域にも河川沿いの斜面緑地や水辺といった自然的な環境要素があり、豊かな生きものの生育・生息の場となっています。



⑤ 都市環境の保全

—— 温暖化防止、ヒートアイランド現象の緩和等 ——

海老川、桑納川、神崎川等の源流域などに分布するまとまった樹林地は、二酸化炭素の吸収源として都市の環境を保全する役割を担っています。また、市街地の緑は、ヒートアイランド現象の緩和に効果があり、街路樹等を充実していくことで緑陰を形成し夏の日差しを和らげる効果もあります。



市街地で発生する二酸化炭素を吸収する効果

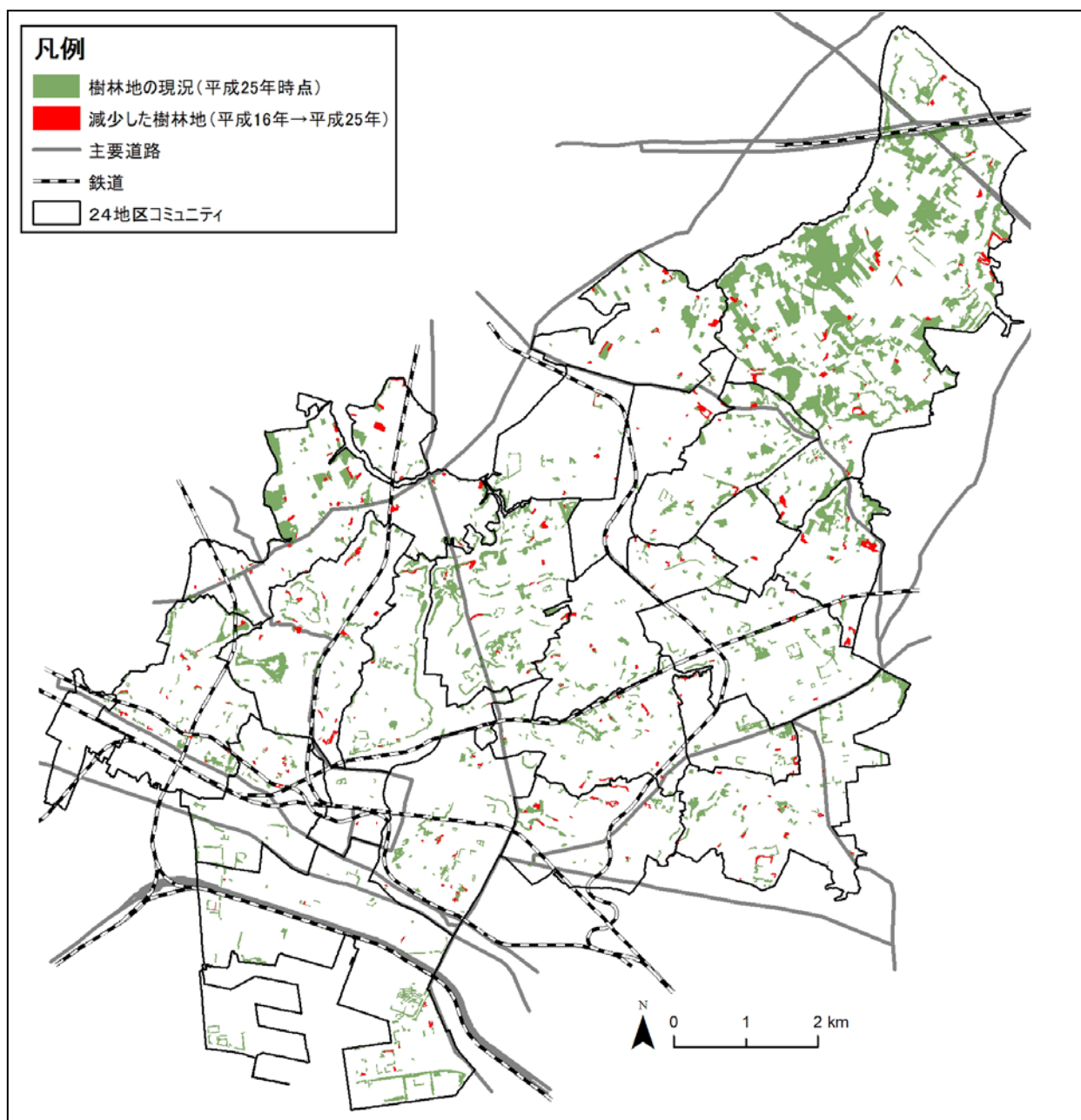
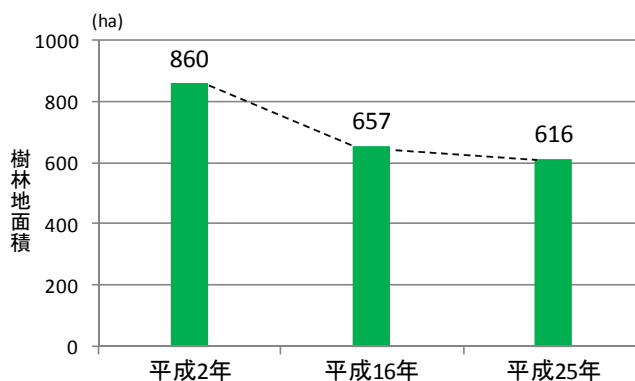


緑陰を形成し夏の日差しを和らげる効果

2 樹林地の現況

都市化の進展により、本市の緑地は減少しています。300㎡以上の樹林地についてみると、平成2年（1990）は860haありましたが、平成16年（2004）には657haとなり約200ha減少し、平成25年（2013）には616haとなり、さらに約40ha減少しています。

616haの樹林地のうち、78haは都市公園、23haは市民の森・県民の森として保全しています。また、指定樹林として105haを指定しています。



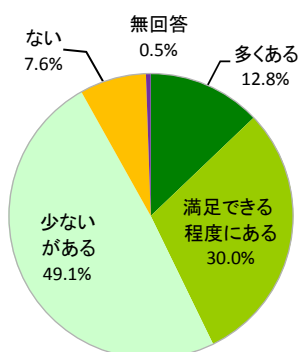
樹林地の経年変化図

③ 市民の緑に対する意識

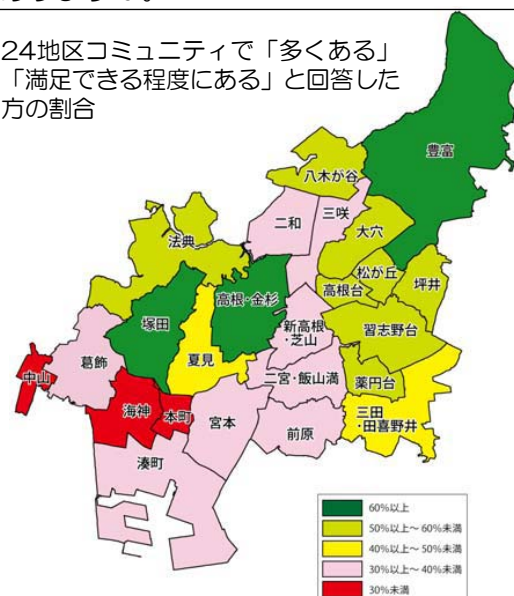
平成26年度に実施した市民アンケートを集計・分析した結果、緑に対して下記のように感じていることがわかりました。（アンケートの実施結果については、資料編に記載しています。）

住まいの近くで日常的に目に映りふれあう事のできる緑はありますか。

「多くある」「満足できる程度にある」を合わせて全体の約4割（42.8%）でした。地域差がみられ、北部地域は「多くある」、南部地域は「少ないがある」との回答が多い状況です。

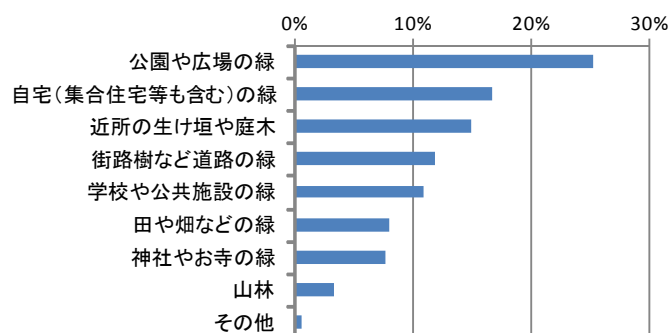


24地区コミュニティで「多くある」「満足できる程度にある」と回答した方の割合



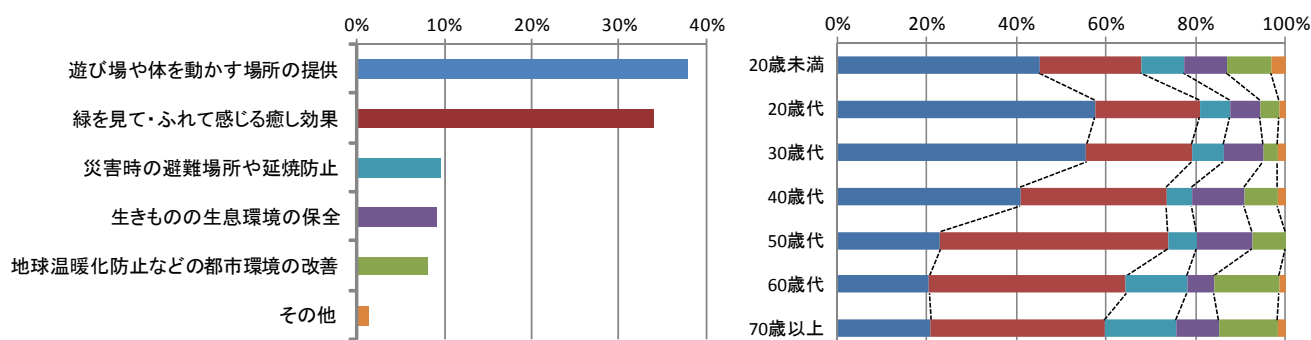
住まいの近くにあるのはどのような緑ですか。

1位は「公園や広場の緑」で全体の約25%の回答がありました。2位、3位は「自宅（集合住宅等も含む）の緑」「近所の生け垣や庭木」で民有地の身近な緑についての回答でした。



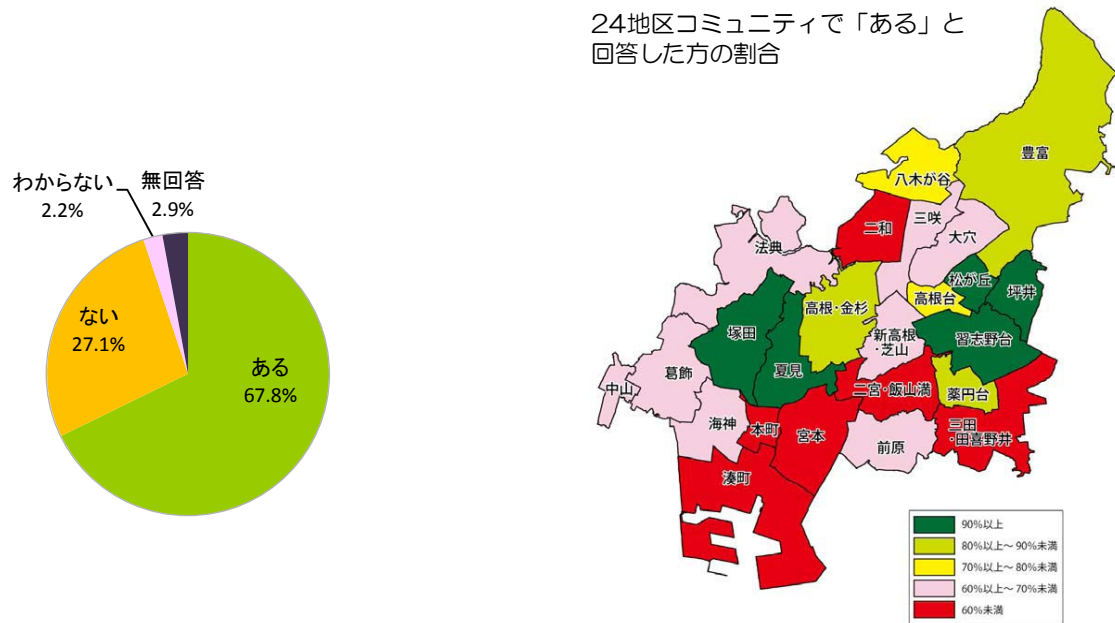
公園や緑に望む役割のうち、一番重要だと思うものはどれですか。

1位は、「遊び場や体を動かす場所の提供」、2位は「緑を見て・ふれて感じる癒し効果」で、この2つが多い。年代でみると遊び場は20歳代、30歳代を中心に若い世代で多く、癒し効果は50歳代に多い。



自宅から徒歩約 15 分（距離 1km）で行ける満足のできる公園はありますか。

「ある」が全体の7割弱（68％）でした。地域差がみられ、「ある」の回答が90％以上の地区が5つある一方、「ある」の回答が60％未満の地区が南部地域に多い状況です。



地区の緑のシンボルとを感じる場所や、今後残したい場所はどこですか。

1 位は「身近に緑を感じる公園」で全体の約25％の回答があり、突出しています。2 位から 5 位は「市民の森などの自然林」「街路樹などの道路の緑」「歴史情緒を感じる神社・寺の緑」「良好な緑地環境を維持する風致地区」で、いずれも約10％です。

